

<全体行事> ときわ会創立20周年記念音楽フェスタ

平成25年5月26日(日)、奇しくも生涯現役ときわ会のボランティア部会がメインに朝から柏市長と共に「柏市ごみ0^{ゼロ}運動」(ときわ会は社会貢献の一環として平成7年から毎月この運動に協力)に参加したその日の午後1時から、音楽フェスタ(後援:柏市、我孫子市、松戸市、流山市の各教育委員会)が開催された。会場はアミューゼ柏のクリスタルホール。400人収容の大ホールに超満員の390余名の方にご参集頂いた(下の写真)。



オープニングは、今成代表世話人が「①本日演奏・合唱する4団体の紹介。②ホワイトエに展示された、ときわ会活動内容の紹介パネル等のPRと入会勧誘。③東北復興支援募金へのご協力」のご挨拶を行なった(下の写真)。



代表世話人挨拶の後、第1部のトップを切って、柏市民吹奏楽団（今回の楽員は総勢44名）が開演に最も相応しいワシントン・ポスト（マーチ）を高らかに演奏された。指揮は国内外でご活躍の米津俊広氏。2曲目は、カーペンターズ・メドレー、続いて数曲を演奏後、最後に童謡の「ふるさと」（その歌詞を大書したパネルをステージに準備）の演奏をバックに会場の皆さんが合唱された。



（柏市民吹奏楽団と米津氏についての詳細は、添付PDFを参照方）

次にステージに登場したのは、つい前日モスクワの演奏旅行から帰国された呼魂（コダマ）太鼓の皆さん。一部の数名の楽員は、2階の非常口から客席通路を通り、小太鼓とチャンチキ（鉦）を奏でながらステージへのぼった（曲目は弁天囃子^{はやし}）。続いて、呼魂太鼓代表の吉田明弘氏による荘厳な雷槌（演目）が、会場一杯に高鳴った。数曲演奏の最後に、お面（お亀、ひょっとこ）を被った数名の楽員が締太鼓、チャンチキ、チャッパ（銅拍子）の演奏（紅龍囃子）に合わせて、ユーモアたっぷりのジェスチャーで会場の通路などを練り足で踊り歩くと、会場は大きな笑いに包まれ、第1部が終演した。



（呼魂太鼓と吉田氏の詳細についても、添付PDFを参照方）

約15分の休憩後、第2部がスタートした。美しい二人の女性による、ピアノとフルート/オカリナの演奏開始である。音楽（通信では無く）通心ネットワーク…添付PDFでもご紹介しているが、このグループは、“もっと身近に生の音楽を！”を合い言葉に‘各教育機関・施設や各種イベント会場で、美しい場づくりを目指して’活躍されている。最初に、イギリスの作曲家エドワード・エルガーの大変有名な「愛の挨拶」を、ピアノ（佐久間ちさ女史）とフルート（細山友子女史）で演奏、「コンドルは飛んでいく」はピアノとオカリナ（細山友子女史）で笛の音（？）高らかに演奏された。最後は、元々はベニスの民謡であった「ベニスの謝肉祭」（ポール・アグリコール・ジュナンの変奏曲）で締められた。



（音楽通心ネットワークについても、添付PDFを参照方）

音楽フェスタも佳境に入り、生涯現役ときわ会のホープ的存在である混声合唱団“フレンドリーシンガーズの御出座（！？）”となった。ピアノは麻生真紀女史、指揮は大門康彦氏。今回の合唱は33名（女声20名、男声13名）で、第1声は混声合唱のための組曲「旅」より、「旅のよろこび～なぎさ歩めば～行こうふたび」。場馴れした33名による熱唱は会場一杯に朗朗と響きわたり始めた。団員小休止の間、大門先生直々のご指導のもと、会場の皆さん約390名による「朧月夜」（歌詞は前もって配布されていた）の大合唱となった（本音楽フェスタの最大の目玉となった…下の写真）。



我がフレンドリーシンガーズの熱唱は、唱歌メドレー「ふるさとの四季」より、「故郷～春の小川～鯉のぼり～茶摘～夏は来ぬ～故郷」、及び「知床旅情」と続き、最後に「エイシア」を合唱して全てのプログラムを終了した。と思いきや、客席の拍手が鳴りやまず、両先生が再登壇、アンコールにお応えすることになった。アンコール曲は「ほほえみ」（小田切清光作詞、鈴木憲夫作曲）で、会場の皆さんを癒しの境にいざない、大団円を迎えた。



（大門康彦、麻生真紀両先生についても、添付PDFを参照方）

家路を急がれる皆さんにお時間を頂いて、今回の音楽フェスタに関するご感想をアンケート用紙に記入して頂いた。約70名の方々から次のようなコメントをいただいた。①こんなにバラエティに富んだジャンルの音楽を1度に楽しむ事が出来て、長生きして本当に良かった。②会場係、案内係の方々等、皆さんの心温まるお持て成しにも感激した。③このようなイベントをもっと頻繁に開催してほしい。などなど、会場の皆さんから最大級のお褒めの言葉をいただいた。

本イベントの開催にご協力頂いた関係者の皆様方に、心から感謝を申し上げたい。誠に有難うございました（掲載写真提供者：西義則さん）。

以上